

**製品名: hnRNP M ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab12151**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	78kDa

**抗原情報**

遺伝子名	HNRNPM
別名	HNRNPM; HNRPM; NAGR1; Heterogeneous nuclear ribonucleoprotein M; hnRNP M
遺伝子 ID	4670.0
SwissProt ID	P52272
免疫原	抗血清はヒト hnRNP M 由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲: 11-60

**背景**

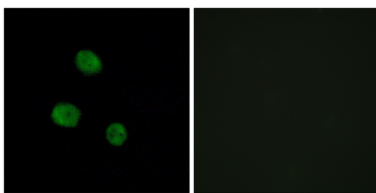
この遺伝子は、普遍的に発現する異種核リボ核タンパク質 (hnRNP) のサブファミリーに属します。hnRNP は RNA 結合タンパク質であり、異種核 RNA (hnRNA) と複合体を形成します。これらのタンパク質は核内の pre-mRNA と関連しており、pre-mRNA のプ

ロセシングや mRNA 代謝・輸送のその他の側面に影響を及ぼすと考えられています。すべての hnRNP は核内に存在しますが、一部は核と細胞質の間を往復しているようです。hnRNP タンパク質はそれぞれ異なる核酸結合特性を持っています。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、RNA に結合する準 RRM ドメインの 3 つの繰り返し配列を有しています。このタンパク質は、未熟な GlcNAc 含有チログロブリン分子の選択的リサイクルを誘導すると考えられている N-アセチルグルコサミン特異的受容体のモノマーも構成しています。選択的スプライシングによって、複数の転写産物バリエーションが生成されます。[代替製品を提供: 一部のアイソフォームについては実験的確認が不十分な場合があります。機能: 生体内ではプレ mRNA 結合タンパク質であり、in vitro ではポリ(G)およびポリ(U)RNA ホモポリマーに強く結合します。スプライシングに関与します。クッパー細胞における癌胎児性抗原の受容体として作用し、タンパク質のチロシンリン酸化および IL-1 $\alpha$ 、IL-6、IL-10、腫瘍壊死因子 $\alpha$  サイトカインの誘導につながる一連のシグナル伝達イベントを開始する可能性がある。、PTM:SUMO 化されている。、類似性:3 つの RRM (RNA 認識モチーフ) ドメインを含む。、サブユニット:スプライソソーム C 複合体で同定され、少なくとも AQR、ASCC3L1、C19orf29、CDC40、CDC5L、CRNKL1、DDX23、DDX41、DDX48、DDX5、DGCR14、DHX35、DHX38、DHX8、EFTUD2、FRG1、GPATC1、HNRPA1、HNRPA2B1、HNRPA3、HNRPC、HNRPF、HNRPH1 から構成される。HNRPK、HNRNPM、HNRPR、HNRPU、KIAA1160、KIAA1604、LSM2、LSM3、MAGOH、MORG1、PABPC1、PLRG1、PNN、PPIE、PPIL1、PPIL3、PPWD1、PRPF19、PRPF4B、PRPF6、PRPF8、RALY、RBM22、RBM8A、RBMX、SART1、SF3A1、SF3A2、SF3A3、SF3B1、SF3B2、SF3B3、SFRS1、SKIV2L2、SNRPA1、SNRPB、SNRPB2、SNRPD1、SNRPD2、SNRPD3、SNRPE、SNRPF、SNRPG、SNW1、SRRM1、SRRM2、SYF2、SYNCRIP、TFIP11、THOC4、U2AF1、WDR57、XAB2、ZCCHC8。

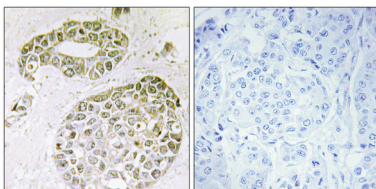
## 研究分野

スプライソソーム;

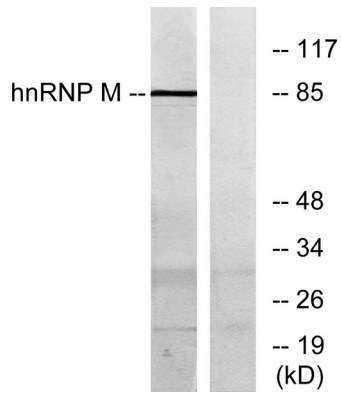
## 画像データ



hnRNP M 抗体を用いた MCF7 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



hnRNP M 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



hnRNP M 抗体を用いた HT-29 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。